

デジタルトランスフォーメーションで重要度が増すサイバーセキュリティー Cybersecurity Technologies Playing Increasingly Significant Role in Digital Transformation

巻頭言

見えざる脅威から社会を 守り抜く

Committed to Protecting Social Systems against Furtive Threats



斉藤 史郎
SAITO Shiro

社会システムの健全な発展は、サイバーセキュリティー対策を確実に行うことが大前提となります。それは、IoT (Internet of Things) や、サイバーフィジカルシステム、デジタルツインなどの技術トレンドを語るキーワードからも分かるように、社会システムが、実システムとサイバーシステムの一体化した存在になっていることによります。

東芝は、再生に向けた取り組みの一つとして、構造改革により、エネルギー、社会インフラ、電子デバイス、デジタルソリューションの4事業領域に注力する体制を、2017年10月に整えました。そして同時に、セキュリティー体制として、東芝グループの情報システムへの取り組みと製品・サービスへの取り組みを集約し、“サイバーセキュリティーセンター”を設置しました。また更に、同年11月には、サイバーセキュリティーに対応する経営体制の強化と指揮系統の明確化を図るため、小職が“最高情報セキュリティ責任者 (CISO)”を拝命しました。これらの対応は、見えざる脅威であるサイバー攻撃から社会システムを守ることを目的としたものであり、東芝グループ全体を含むガバナンスを強化することで、今後一層、迅速・適時・適切な対応を進めて参ります。

このような背景から、この特集では、社会システムのサイバーセキュリティーをテーマとしました。東芝グループの具体的な取り組み例として、インダストリアルIoTセキュリティーアーキテクチャー、長期安全を担保するホワイトリスト技術、セキュリティー認証を取得した制御システムコントローラー、ソースコード解析ツールによるセキュリティー品質確保、及び制御システム向け仮想化テストベッド技術を紹介します。

セキュリティーの実現には、個々の対策を適用するのはもちろんのこと、運用や、オペレーション、事業の継続性などの視点も重要です。2018年3月に発表された「経団連サイバーセキュリティ経営宣言」では、Society5.0の実現に向け、“価値創造とリスクマネジメントの両面からサイバーセキュリティ対策に努めることが経営の最重要課題である”として、総合的な取り組みの重要性を説いています。当社も、引き続き内外の関係者との連携を図って参ります。この特集を是非ご一読の上、皆様のご助言、ご指導を頂ければ幸いです。

(株)東芝 執行役専務 博士(工学)
Corporate Executive Vice President